令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475400891
法人名	社会福祉法人　仙台ビーナス会
事業所名	中田高齢者グループホームゆきあい
所在地	宮城県仙台市太白区西中田二丁目23－5
自己評価作成日	令和　2 年 12 月 4 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和　2 年 12 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念でもある「ゆっくり・たのしく・いっしょに」をモットーに入居者様と共に過ごす時間を大切にし、支援を行うよう努めている。平成29年度に引っ越ししたが、以前と同様1階が同法人のデイサービスセンター、2階にゆきあいが設置されている。デイサービスセンターとの合同行事や運営推進会議などで地域の方との交流や情報交換を図り、地域行事へも積極的に参加して行きたいと考えていたがコロナ禍のために今年度は地域交流は出来ていない。家族会があり、家族会主催で行事をして頂いたりと、家族様からも大きな協力を得ているが上記と同様交流行事は今年度は実施出来ていない。昨年度、町内会を通して災害時の防災協力員をご紹介頂き任命を行った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、JR南仙台駅の西北の住宅地にあり、南北に走る県道258号線の道路沿いにある。鉄筋2階建ての2階を使用する1ユニットである。ホームはコロナ禍の中、地域との交流も制約され、外出も面会も制限される状況にあって、敷地内の散歩や家族との交流を工夫している。職員はホームの理念に基づき、入居者の趣味や希望、こだわりを受け入れ、入居者に寄り添う支援をしており、入居者は職員を労いながら明るく過ごしている。往診や看護職員による健康管理がなされ、医療連携が取れて終末期まで支援でき、入居者も家族も安心して生活している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　中田高齢者グループホームゆきあい　)「ユニット名　　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の玄関隣に理念を掲示している。理念である「ゆっくり・たのしく・いっしょに。その人のペースに合わせてそばにいて一緒に好きなことや得意なことをして過ごしましょう。」という理念を根拠としてケア提供を行っている。	囲碁、将棋の好きな人に職員が対局し、洗濯物の畳み方のこだわりを受け入れ、「風呂は何曜日の午後にする」の要望に対応する等、理念に沿った支援に努めている。年度末に振り返り、理念を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に属しており町内の一員として活動している。地域行事は今年度は中止が多く不参加としていた。地域の情報は回覧板や運営推進会議を通して参加者から得ている。	裏の畑の人がホームの草取りをしてくれ、野菜を差し入れてくれる。町内の秋祭りや市民センターでのコンサート、町内敬老会等が中止となり、地域包括との認知症カフェも休止、映像ボランティアも今は休んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターとの連携やボランティア来所時、運営推進会議等、地域の方との関わりを持った際には、認知症の症状や関わり方を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員より、地域行事等の情報を得たり入居者の近況や情報交換を行っている。会議を通してお願いした町内会子ども会の資源回収が定期的に来て頂いている。	3月からの会議は、電話にて近況報告をしている。コロナ禍で面会制限時、メンバーの家族から「顔を見たい」の意見に、面会制限を一部緩和したり、ガラス越しに面会できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人で定期的に発行している広報誌を郵送している。仙台市が主催している研修会に積極的に参加している。保護課の担当の方には、入居者の状況を伝えている。	法人の広報誌を区役所や町内会長に配布している。入居者の経済状況から生活保護を受けられるか相談したことがある。感染症に関する研修会や認知症実践者リーダー研修の案内があり、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に係る指針を作成し、3か月に1回委員会をし、理解や廃止に努める事ができている。玄関の施錠は安全面を優先し施錠をしているが、外出時には開錠し、付き添いをしている。	外出傾向の強い人はいないが、外に出たい様子の時は職員が一緒に散歩する。「待ってて ね」「座っててね」の声掛けはスピーチロックに当たらないか、と話し合っており、どのような声掛けをすべきか検討している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内で委員会を設置している。内部・外部研修を通し学ぶ機会を設けている。会議や業務中においても現在行っているケアが適切か話し合いを行い、職員のケアに対する悩みを聴き、一緒に考え虐待防止に努めている。	車椅子移乗のバランス等で、不適切なケアになりそうな時はベテラン職員が介護技術を指導している。不適切な言葉遣い等に気付いた時は、管理者に報告し、状況を確認し職員と話し合っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や法人内での研修に参加し、研修で学んだ内容を会議にて伝達し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は運営規程・契約書・重要事項説明書を基に十分な説明を行い理解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ年1回アンケートを実施している。また、家族会総会時や個々の面会時に意見や要望を伺い、それらの内容を運営推進会議で公表し、ケアに反映させている。	「居室でお茶を楽しみたい」の希望に、安全を配慮し応じている。家族から戸外への希望があり、敷地内を散歩するように努めている。面会制限の中、ホームの様子を知りたいとの意見に、入居者の写真等を送付している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所長は、定期的及び不定期に職員と面談を行い、業務に反映させている。また、管理者は毎月の会議や日頃の業務内での会話の中から職員に問いかけ意見や相談を聴取し、業務に反映させている。	特別外出で行きたい所、食べたい物等、入居者が満足できるよう工夫し支援していた。職員の家庭の事情や体調に合わせ、シフトを調整している。入居者の関係性を見て、食堂のテーブルやイスの配置、座席を変えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に面談を実施し、能力やスキルに応じた職員配置を行っている。また法人の自主研修や事業所内での研修等を設け職員同士でのやりがいやコミュニケーションを図れるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、法人全体、事業所、個々に応じて計画的に研修へ参加出来るよう努めている。また、事業所内研修は職員持ち回りで講師をしたり職員個々に年間目標を掲げ、自己研鑽出来るよう働きかけている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県市社協及び宮城県GH協議会の研修に参加。今年度はコロナ禍のため外部からの研修生の受け入れや自事業所から他事業所へ研修に行き情報交換・交流する機会はつくれていない。	法人のグループホーム研修で情報交換していた。地域医療推進機構の仙台南病院での医療、福祉の研修や、地域の医療関係者による在宅ケア連絡会に参加していた。コロナ禍が収まれば再開する予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査という形で生活の状況や思いを本人に確認している。また、入居前にも何度か関わりを持ち本人の気持ちや要望を会話から汲み取り職員間で共有するなど関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の意向を確認している。担当のケアマネージャーから情報収集し、入居前に困っていたことや大変だったことに耳を傾け、今後GHでどのように支援していくか家族と情報を共有しながら決め、ケアに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員をはじめ、主治医や他職種、家族と連携し職員間で情報を共有して、今なにが　必要なサービスかを考え本人主体のケア提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念「ゆっくり・たのしく・いっしょに」を念頭に置き、意思を尊重し、できること（役割）を担って生活して頂いている。職員も一緒に活動するようにしている。また、その人の声に耳を傾け、喜びや不安を共に分かち合い支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、入居者に対しての細やかな情報を教えて頂いたり、GHでの状況を共有し協力しながら本人を支え合う体制をを築いている。今年度は行事開催が出来ず交流機会が少なかったことから電話や文書によって日常的な情報の提供を意識的に行った。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バックグランドの把握に努め、本人との会話の中から馴染みの人や場所を把握し散髪や散歩を実施している。また、行事開催の際は家族等に情報の提供や参加した様子をお伝えした。	知人（法人の職員）が面会に来る人がいる。家族や従弟、甥等が面会に来ていた。ドライブで馴染みの場所を通ると、当時の懐かしい話をしてくれる。農家だった人は、畑の苗を見て「里芋だ」等教えてくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等を把握した上で席の配置や一緒に作業できる環境作りに努めている。また、心身の状況や気分、感情などで日々の関係性も変わってくるので、注意深く見守りを行い、円滑に関わりを持てるよう職員が間に入って支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了時は長期の入院や他施設への入所や亡くなった際であっても、必要に応じて家族とこれからについての相談や報告を受けていた。今年度は死去に伴う退所が1件。新規入所1件。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にアセスメントを行ったり、普段の会話の中から希望を引き出すようにしている。本人の訴えや希望があった際には、職員間で申し送りノートで情報の共有を図り、会議で情報交換をし、希望に沿えるよう取り組んでいる。	食べ物では、寿司や饅頭、ケーキ等の希望が多い。「居室でお茶を楽しみたい」「寒いから布団が欲しい」等の希望に対応している。医師から処方された薬を受け取りに行っていた近くの薬局が馴染になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族に「発症経過シート」「バックグランド」の用紙に記入して頂いている。入居後本人との会話の中から得た情報も追記して記入し、職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「一日の流れ」の用紙に入居者の一日の状況を記載し、職員がいつでも把握できるようにしている。また、新たな情報や出来事については申し送りノートを活用することで情報の共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議や随時ミニカンファレンスを設けアセスメント・モニタリングを基に職員間で意見を出し合って介護計画を作成している。家族には面会時や確認が必要な場合にその都度相談している。	担当が入居者のモニタリングを行う。「歩き方が弱っている」に対して職員から「つまづかないよう絨毯を撤去しよう」「部屋の小物入れを、安定したタッチアップ手摺に置き換えよう」等意見が出て、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議やカンファレンスで得た個々の情報を共有し、新たな取り組みへと繋げたり、検討したりして介護計画の見直しに活かしている。また、24時間シートを活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所が家族の代理として、家族同様に関われるよう本人の状況に応じて受診の支援を行っている。また、本人の希望に応じて散歩、買い物の代行、ドライブ等実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、地域ボランティアの受け入れや地域行事に参加し、町内のお店や病院を利用することで地域との関わりを持てるよう取り組んでいたが今年度はコロナ禍のため外出は出来ていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に相談し確認をした上で、かかりつけ医の往診受診を行っている。かかりつけ医へは随時状態の報告及び相談できる体制を整えており、適切な医療を受けられるよう支援している。	月2回の訪問診療がある。眼科、皮膚科等の受診は職員が付きそう。循環器受診は家族対応である。受診時はバイタル表や生活状況等を伝える。看護職員が週2回、健康管理をしている。歯科医の訪問診療もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の体制があり、定期的に看護師が訪問している。日常的な健康管理と相談を行い、緊急時には、併設のデイサービスセンターの看護師の協力が得られる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はソーシャルワーカーと密に連携を取り、本人の状態について確認を行っている。退院の際にはカンファレンスに参加させて頂いたり面会に行く等して情報を共有し、退院後の生活がスムーズになるよう支援している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りの指針を定めており、入居時の段階で個別に家族へ説明を行い同意を得ている。看取りについての希望もその際に確認している。看取りの対応については、かかりつけ医・家族・看護師・事業所を含めたカンファレンスを行い、今後の方針を共有し職員全体で支援に取り組むようにしている。	終末期ケアの経験から、職員に往診の医師から「今の介護のままでいいんです」等アドバイスを受け、安らかに看送りすることができた。家族から感謝され、入居者もお別れの挨拶をした。職員の看取りに関する教育は、管理者が行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での研修に救命救急の項目があり、全ての職員が受講できるように配慮している。また、急変時の連絡方法についても職員に周知しており、不安の軽減に努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3．11の地震を教訓に法人独自の災害発生時対応フローチャートを作成している。地域の協力については運営推進会議で呼びかけ、町内会長より避難訓練に町内会の防災部が参加するよう声をかけてもらう事になった。	昼間想定の訓練を行った。火災訓練時には地域の防災協力員3名が参加することになっている。ホームは2階であるが、2階から渡り廊下で繋がっている本館に避難できる。夜間想定の訓練を早急に実施願いたい。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人との関わりを大切にし、その方に合った穏やかで丁寧な声掛けや対応を心掛けてている。接遇については、法人内での研修や事業所内研修で学び日々の関わりに活かしている。	「おばあちゃん」と呼んで欲しい人に、おばあちゃんと呼ぶこともある。失禁した時は「ちょっとお部屋に行きましょう」等誘う。プライドの高い男性に力仕事等依頼し助けられている。挨拶や言葉遣い等、接遇の研修を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望に沿えるよう、一人一人に合わせた言葉で話しかけその方が答えやすく自己選択・自己決定が出来るよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の体調や会話の中から状況に応じて散歩や入浴、買い物等個々のニーズに沿った支援を行うよう柔軟な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出する際には、本人と一緒に服を選んでいる。また訪問利用を定期的に利用している。その人らしい身だしなみを継続できるよう心がけている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付けは現在対象者はないが、片付けを職員と一緒に行っている。その際にそれぞれ出来ることが違うので、その人に合わせた声掛けを行っている。	食材は宅配サービスを利用している。朝食と夕食は湯煎で、昼食はメニューに基づき手作りである。入居者から、煮魚の作り方やみそ汁の具の組み合わせ等を教えてもらう。職員も一緒に食事をし、さりげなくサポートする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食材宅配サービスを利用している。昼食は手作りタイプ、夕食・朝食は簡単な調理タイプを取り入れている。献立には栄養価が記載されており、バランスの取れた食事の提供となっている。その他必要に応じて法人の栄養士に相談して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には、声掛け見守りを行っている。出来ない方には職員が口腔ケアを行っている。夜間帯義歯の自己管理が困難な方には預かり消毒を行っている。口腔内に問題がみられた際には協力歯科医に連絡し受診へと繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツ使用者はゼロである。一人一人に合わせたパットを時間帯に応じて使い分けをしている。24時間シートに排泄を記録し、スタッフ間で情報を共有しながらその人に合わせた声掛け・トイレ誘導を実施している。	自立の人は3人、付き添いを要する人は2人、 尿意等なく時間を決めて誘導する人が4人である。皆、トイレで排泄するよう支援しており、2人介助を要する人が2人いる。夜間は安眠の状況を見ながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を提供している。個別に体操を実施し、便秘予防に取り組んでいる。便秘薬を服用している方は主治医と相談しながらコントロールしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々の希望に合わせてゆったり入浴出来るよう心掛けている。入浴剤を入れたり、季節に応じて菖蒲やゆずを入れて楽しんでもらっている。ADL低下に伴って一般浴槽に入ることが出来ない人はデイのリフト浴を借りて入浴している。	週2回入る。入浴拒否の強い人はいない。風呂場で、男性は昔働いていた建設現場の話や長距離運転の話が出る。女性は姉妹等家族の話が多い。脱衣所はカーテンやドアで仕切られ、電気ストーブを使い暖かくしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量に合わせたメリハリのある生活を心掛け、身体状況に応じて休息を取っている。気持ちよく眠れるよう掛け物や室温適温に保ち、その人に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容がすぐわかるように一冊のファイルにまとめ整理している。服薬チェックを徹底し服薬時には、Wチェック（声を出し職員2名で対応）の実施。処方が変更になった場合には申し送りノートに変更内容や効能等を記載し、全職員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付け・洗濯たたみ方・干し方・掃除等それぞれ得意分野で持てる力を発揮できるよう支援し、日々の感謝の言葉を伝えるようにしている。また、趣味活動が継続できるよう努めている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出機会が減っていることもあり散歩など外出する機会を多く持てるように取り組んでいる。個々の希望に応じた支援を可能な限り行っていた。併設のデイサービスと協力して初詣やお花見ドライブなどを実施した。	日常的に敷地内を散歩し、ベンチで寛いでいる。外出の年間予定は取り止めている。本人が出たがらない時は「もう予約したんだよ」と促していた。居室担当者が企画する外食等の個別外出や家族との自宅への外出、墓参りも今は行っていない。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は個人別に預かっており金庫へ保管し台帳を用いて管理している。管理できる方に対して所持して頂きお店に出掛け自分で支払いができるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人から希望があった際、時間を考慮し職員が取り次ぎを行い支援している。また、スタッフが家族に電話連絡する際には本人に代わり電話をかけ、取り次いでいる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の作品や行事の写真を飾り、生け花や装飾などから季節を感じられるよう居心地のよい空間作りに努めている。明るさやテレビの音なども随時確認し刺激のないよう考慮している。	リビングは日当たりがよく明るい。クリスマスツリーの飾りを壁に掛け、七福神の宝船の塗り絵を作っている。法人から月2回花が届き、入居者と飾り季節を感じている。朝の軽い体操後に、日めくりカレンダーで月日を確認している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファーを設置し、一人若しくは数人で過ごせる場所を設けている。また、温度調整や、換気をしたりテーブルの配置を随時変えたりと工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、入居時に使い慣れたタンスや仏壇など馴染みの物を搬入し、入居者様が好む空間作りに努めている。居室内にご家族様の写真や誕生日・イベント等のメッセージなどを飾り安心して過ごせるよう配慮している。	物入れやエアコン等が備え付けである。家族の写真やイベントの集合写真、誕生祝の色紙等を飾っている。テーブル、イス等をもってきている。ベッドの位置や高さ、タッチアップ手摺等、生活環境の改善に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を付け、トイレや浴室等一目で分かるよう表記している。居室内では家具の配置やベットの位置、高さ等入居者様が安全に自立した生活が送れるよう、また本人の希望に沿えるよう、日々職員間で話合い環境作りに努めている。		